

第 15 回 日本小児在宅医学会学術集会に参加しました（2026/8/23）

テーマ：医療的ケア児者、医療的ケア児者等、多職種、法改正、災害時の避難・備え
会場：パシフィコ横浜・会議センター

第 15 回日本小児在宅医学会学術集会が、2026 年 8 月 23 日（日）にパシフィコ横浜・会議センターにて開催され、齋藤玲助教（認知科学研究分野）、武田百合子学術研究員（災害レジリエンス共創センター）、猪狩暢子助手と高橋利恵子助手（共に上廣防災学寄附研究部門）が参加し、遠山裕湖特任准教授（客員）（災害公衆衛生学分野）が発表を行いました。

本大会では、「多職種の支援は『医療的ケア児』から『医療的ケア児者』へ」をテーマとし、医療的ケア児が成人へと成長する際に直面する「18 歳の壁」をはじめとする多様な課題を克服し、生涯にわたる切れ目のない支援体制を確立することを中心とした議論がなされました。私たちは、こうした医療的ケア児者のライフステージ移行期における課題に対応するとともに、日常の生活支援にとどまらず、大規模災害時における電源確保や避難体制の整備といった命に直結する防災課題を解決することが求められています。また、そのためには、医療・福祉・教育・行政をはじめとする多職種が、当事者やご家族とより近い存在となって互いに協力し合うことが不可欠と考えられています。本大会では、こうした実践・研究上の課題を実際的に解決するために、立場を超えた専門職が一堂に会し、地域や現場での知見を共有しました。開会式・シンポジウムでは、2026 年 7 月に超党派の「医療的ケア児等支援議員連盟」の推進により、改正医療的ケア児支援法が成立したことが報告されました。本改正は当事者家族の切実な声を受け、支援対象を成人や重症心身障害者へ拡大し「18 歳の壁」を解消した点において、極めて重要な意味を持ちます。

遠山特任准教授（客員）チームの発表では、医療的ケア児者や支援者の孤立を防ぐためのカードゲームを用いた対話型アプローチの効果として、多職種の心理的安全性が向上し、組織的支援体制づくりの初動に有効と示されたことが報告され、圏域を越えてつながる仕組み創りのシンポジウムでは、医療的ケア児支援の法改正後の未来を見据え、アンケート分析から圏域越えの連携による人材育成等の重要性などの議論が交わされました。また、災害部門のシンポジウムでは、医療的ケア児等の生命を守る実効性のある備えと連携事例として、

- 個別避難計画の策定と訓練による検証のほか、自家用車給電の限界を踏まえた LPG 発電機と蓄電池による正弦波電源の有効性に関する実践報告
- 専門施設での訓練や備蓄の強化に関する報告
- 北海道での指定福祉避難所の協定締結による地域連携の推進に関する実践報告
- 体験キャンプを通じた家庭での課題把握
- 安否情報共有アプリの活用による災害時における迅速な共助・公助の促進に関する研究

が報告され、活発な議論がなされました。



発表の様子



遠山特任准教授（客員）による発表

文責：高橋利恵子（上廣防災学寄附研究部門）